

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/02/03～2020/03/04 )

### 1. 勉学の状況

オストラバに到着してからの一週間はウェルカムウィークで授業の無い期間でした。二週目から履修登録期間が始まり、授業によっては翌週から始まるものもあり、本格的に学生生活が始まったのは3週目からでした。コース検索画面上でその授業が今学期に開講されているか否かの判断が出来かねた為に、当初履修予定であった授業を大幅に変更せざるを得なくなり、履修を組み直す段階では学習意欲に影響が出ていました。しかし、履修を組み直す上で、ここに滞在する半年間で何を学ぶのか、ここでの学びをどう繋げたいのか、どのような姿勢で学習するのかを改めて考え直す機会となりなした。

私が所属する学部の授業の多くが、履修予定であった授業を含め開講されない状況の中、履修する授業を一貫したテーマにする事は難しいものでした。その為、開講されている中から、今後の学術的な場面を含めそれ以外の場面でも私自身の人生に影響を与え得るものを履修する事にしました。履修した授業の1つに理学部の Limits of Development in China and India という授業があります。この授業では地域を絞る事で、様々な観点において対象を深く掘り下げる事を可能としており、学習方法もプレゼンテーションと課題の動画をまとめるレポートを週ごとに交互に行うもので、これからクロスメジャーやそれ以降の研究を行っていく上で必要となるスキルが何か、調査や研究対象の掘り下げる上で重要となる視点が何か、などを学ぶ事が出来ると考えました。実際に、1ヶ月この授業を通し、英語の文献やwebサイトを読む事や、日本語に訳されない海外の報道を実際に見る機会を得た事で、得られる情報の幅が広がった事を感じました。またその重要性は感じるものの、触れた情報全てを自分のものにするだけの語学上のスキルが足りていないことも実感しています。その他の授業は、英語IIで塩谷先生が仰っていた「英語を学ぶ上で、英語だけでなくヨーロッパ言語に触れた方がよい。もしまだ触れた事がないなら尚更。英語ばかりが必要とされているがヨーロッパ言語も非常に面白いものだ。」ということ思い出し、せっかくチェコ語の身近に溢れる環境に身をおいているならと、チェコ語を履修する事に決めました。英語でチェコ語を学ぶ難しさや、テキスト自体もチェコ語である事により難易度は高いものの、実際に現地に身をおいている事で実践の場が身近にある事から大変興味深いと感じています。そのほか、English for tourism という授業は、私の出身地が沖縄という観光に深く関わる場所であり、観光業についての千葉大で学べない専門的な内容に触れらるのなら学びたいと考え履修しています。実際に様々な国から来た留学生とその国々での観光の可能性や課題についてディスカッションを通して学び合ったり、生徒のプレゼンを通し、学習意欲の高さや専門知識の多さを感じたりしています。この1ヶ月間、授業においては英語での細かい指示を的確に理解する事が難しいと感じる場面も多くありましたが、他の学生や担当教員に確認を取る事で補って

おり、わからなかった事を恥じずに尋ねる、向き合うという姿勢をも養う期間となりました。

## 2. 生活の状況

寮生活においては、部屋にクローゼットと机とベッドがそれぞれあるだけの三人部屋で、仕切り等もなくプライバシーを確保する事が難しい状況です。これが数日と続いていくうちに、私自身にとって結構なストレスとなっている事に気づきました。冷蔵庫もホテルの一室にあるような小さな立方体のようなものを三人でシェアするというのが難しく、食材を大量に買い込み、そのほか作り置きなどで限られたスペースを消費される事が続き、自分自身の希望をきちんと伝えることの重要性和同時に難しさを感じました。さらに就寝時間の個人差と壁が薄いことなどにより、他のフロアや部屋からの深夜の騒音に度々悩まれる事があります。個人的な話になると、ルームメイトが恋人を1日の間で頻繁に部屋に招く事もストレスとなっていました。最近新しく増えたルームメイトび女性がムスリムである事により頻繁に男性が入り出す事が無くなったので解決しましたが、思っていた以上に留学先での寮生活の難しさを痛感した1ヶ月でした。

しかし、このように想定していた以上の困難や不自由はあれど、私が日本でどれほど恵まれた生活をしてきたかを痛感し有難みを感じる事ができたのは幸運でした。そして、毎日寮の中で多くの留学生と顔を合わすうちに、授業外の時間にも交流する事ができ、友人もでき出来、放課後や週末には出かけたり、来て当初揃えなければならなかった調理道具などを共に買いに行ったりして日々の生活を支え合うこともできています。基本的には、量の共同キッチンで多くの学生が自炊をしています。私も授業と授業の間に時間がある為、昼食も寮に戻って作って食べたりしています。時折、寮のロビーで一品持ち寄りパーティをしたりしています。

オストラバの街は、チェコの第三の都市ということもあり、都会すぎず田舎すぎず、非常に住みやすい街であると感じます。川も流れており、寮は見晴らしの良い高台にあり、景観もよくとてもこの街を気に入りました。街では基本的にクレジットカードでほとんど生活できてしまうほどキャッシュレス化が普及しているとも感じます。

大学から徒歩10分ほどの場所にショッピングモールがあるので、パソコンを大学と寮にひいてあるWi-Fiに繋ぐ際に生じていた問題が解決するまでの約1ヶ月間、そのショッピングモールのフリーWi-Fiを利用していました。細かな問題こそ様々ありましたが、約1ヶ月を通し1つずつ徐々に解決していったので、現状はようやくこの土地で生活していく為の地盤が整ったというところです。

これからもまだ慣れないことへの対応に追われたりと大変なこともあるだろうとは思いますが、自分の殻を破る事で乗り越えていけることは多いと実感した1ヶ月でしたので、今後もこの貴重な経験を楽しみながら頑張っていきたいと思います。